

中小企業ぎふ

2017
10・11

Vol.657

2017年11月25日発行

～ 立ちあがろう中小企業、日本のために ～



クローズアップ企業
2～3

協同組合
スカイドーム・神岡
組合員

「船津醤油株式会社」

- 会員組合紹介 4
- 先進組合事例紹介 5
- 中央会の活動 6～7
- 組合等の活動 8～9
- 10月の景況レポート 10～11
- 組合士レポート 12
- インフォメーション 13

「ものづくり補助事業成果事例発表会」のお知らせ・

「中小企業ものづくり・新サービス展」の案内 14



“組合のニーズに応えるパートナー・中央会”

岐阜県中小企業団体中央会

岐阜市数田南5丁目14番53号 OKBふれあい9階
TEL 058 - 277-1100(代) FAX 058-273-3930
URL <http://www.chuokai-gifu.or.jp>

クローズアップ企業

船津醤油株式会社

【協同組合スカイドーム・神岡 組合員】



《企業概要》 岐阜県飛騨市神岡町船津1365
船津醤油株式会社 代表取締役 堂野浩義
<http://www.hida-funatsu.co.jp/>

協同組合スカイドーム・神岡は、飛騨市神岡町にある「道の駅スカイドーム神岡」を指定管理者として運営しています。平成9年12月の安房トンネル開通を契機として、平成11年7月の「星の駅・宙(スカイ)ドーム・神岡」開館に先立ち、平成11年2月に地元商工業者の有志が共同販売施設として活用を図るため、組合員の取り扱う製品等の共同販売、販売促進を主な事業とする「神岡特産開発協同組合」を設立しました。その後、施設が道の駅として認定されたことに伴い組合名を変更し、現在に至ります。道の駅には、奥飛騨の味を楽しめる飲食店や特産品の売店の他、日本で唯一「スーパーカミオカンデ」の体験ができる『ニュートリノコーナー』があります。

来年の平成30年には、組合設立20周年を迎えます。道の駅の施設もリニューアルを予定しており、「スーパーカミオカンデ」に関する展示が拡充され、組合員の製品を取り扱う売店も新しくなります。

今回は、大正8年の創業以来98年間、杉樽で仕込んだ味噌・醤油が“地元の味”として親しまれ、朴葉味噌でお馴染みの「船津醤油株式会社」を訪問し、当組合の副理事長も務める堂野浩義社長にお話しをうかがってきました。

◎御社のこれまでの沿革についてご紹介ください。

☞ 堂野社長

当社は、飛騨市神岡町にあり、大正8年の創業です。当時の神岡町は、三井金属神岡鉱山にて東洋一の亜鉛の生産量を誇っていました。近年は、その鉱山跡地を利用した“スーパーカミオカンデ”として、ニュートリノの観測研究がされており、小柴晶俊氏と梶田隆章氏のノーベル賞受賞で話題になりました。かつて、鉱山が栄えるとともに人口も増加しましたが、雪深い地域のため冬期は陸の孤島となりがちで、食糧確保が課題でした。こうした地域の要望に応えるため、町民50人が出資して当社が創業され、味噌と醤油の醸造を開始しました。



堂野浩義社長

また、乾燥させた朴葉の上に、当社独自に調合した味噌をのせて焼く“朴葉味噌”も製造しています。きっかけは、昭和44年2月に隣町の流葉で国民体育大会冬季国体が開催されたことです。国体の役員や参加者の方に喜んでもらうためのお土産を検討したところ、この地域で昔から親しまれている朴葉味噌を当社で商品化することになりました。今でこそ朴葉味噌は、飛騨を代表するお土産の一つとなっていますが、この国体を機に開発した当社の商品が元祖だと言われています。

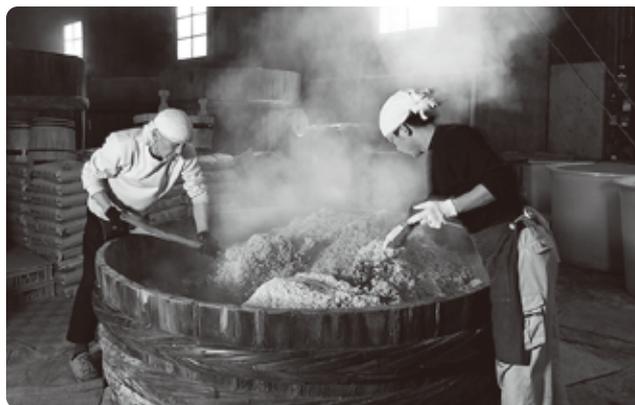
私は平成16年から社長に就任していますが、創業以来変わらぬ方法で、昔ながらの杉樽による天然醸造にこだわり、味噌・醤油をつくり続けています。また、当社の天然醸造味噌を使った調理味噌の他、お客様の声から生まれたふりかけ等も製造しており、直営店や組合が運営する道の駅、周辺の大規模スーパーでの販売を中心に行うとともに、通信販売でも全国のお客様へお届けしています。

◎御社の特徴や方針を教えてください。

☞ 堂野社長

特徴は、何といたっても創業当時から続く「杉樽仕込み」です。当社の工場にある杉樽は、すべて創業時の大正8年に製造されたものです。杉樽仕込みでは、旨味の源となる麹菌が杉の中にしみ込み、長年の旨味が蓄積され、味わい深い味噌に仕上げることができます。味の主役となる麹菌は、場所によって異なっており、当社には独自の麹菌が生き続けています。同じ樽には約100年同じ材料が仕込まれることによって、味のぶれがなく、時代を超えて同じ味に熟成できるといわれています。現在多くの味噌生産は合成樹脂製やスチール製の樽で仕込まれており、最新のシステムで管理されるため、味の平均化は問題ありませんが、杉樽のように生きた麹菌により旨味が閉じ込められた味は、決して真似できるものではないと思います。

また、すべての製品を杉樽で仕込むことは、豊富な経験がないと製造できません。その製法や道具に対する思いは、職人



塩と麹を混ぜる

から職人へ伝わる口伝として、大切に語り継がれてきました。これが、当社の貴重な財産となっています。

昔ながらの味を守るために、お客様の味覚の変化に合わせて、創業以来3回、ほんの僅かですが味噌の味を変えています。これからは「変わらない味」を守るための努力を続けることが使命だと思っています。

◎組合に期待することは何ですか？

☞ 堂野社長

組合が指定管理者として運営している「道の駅スカイドーム神岡」は、平成30年に飛騨市主導のもとリニューアルされる予定です。国内唯一のスーパーカミオカンデが体験できる『ニュートリノコーナー』を現在のスカイドーム部分に全面的に拡張し、展示も充実します。これに先行して、新たに増築する部分に組合員の製品を取り扱う売店を移転し、平成30年3月にオープンします。新しい売店では、お客様に少しでも気軽に買い物をしていただけるよう、取扱商品や陳列方法について組合員で検討を重ねています。

さらに、現在のスーパーカミオカンデより数倍規模の東京大学宇宙線研究所「ハイパーカミオカンデ」を道の駅の近くに新設し、世界に誇るニュートリノの情報発信基地となる計画が進んでいます。

組合には、この機会を活かした観光客増加のための取り組みを期待しています。高山や白川郷など他地域との連携やインバウンドへの対応も推進したいと考えています。そのためにも、組合員一丸となって組合運営に積極的に関わることが重要ではないでしょうか。

私は今年から組合の副理事長を拝命しておりますが、組合員と協力して老田理事長を支えていきたいと思っています。



現在の道の駅売店

◎経営をしていく上で大切にしていることを教えてください。

☞ 堂野社長

「人とのつながり」を大切にしています。当社は、地域の方の要望により、地域の方のために創業されましたが、現在では全国の多くのお客様に味わっていただいています。

かつての神岡は鉱山で栄えており、最盛期の昭和35年頃には人口27,000人以上でした。現在の人口が9,000人程度であることと比較すると、いかに賑わっていたかがわかるかと思います。時代の流れとともに鉱山の合理化が進み、ついには閉山に至りますが、全国に散らばった神岡の人々は、地元の味として、当社の味噌や醤油を全国に広めてくれました。

また、国体で全国から多くの選手が集まった際のお土産として持ち帰った朴葉味噌が、他の地域に広まるきっかけとなり、今では定番のお土産となっています。

その時その時で「人とのつながり」を大切にしてきた結果、地域や世代を超えて当社の商品に愛着をもっていただけていると思っています。これからも、この思いを大切に携わっていきたいです。

◎最後に御社の今後の展望、抱負をお聞かせください。

☞ 堂野社長

当社は、杉樽仕込みで醸造しています。一方で、製品の安全を確保する手法としてHACCPの取得が推奨されているなど、年々衛生管理が厳しくなっています。

杉樽仕込みの伝統を守ることと、衛生管理を徹底することは、一見相反することに思えます。しかし、お客様に変わらぬ味を提供することを第一に、一つ一つ真摯に取り組んでいきたいと考えています。

当社が考える「ごちそう」とは、素朴かもしれないけれど、おいしいだけではなく、昔の思い出もよみがえるような料理です。お客様が「朴葉みそを焼くと、香ばしい匂いでいっぱいになる」「なつかしくて昔と同じ味」「おいしい」と喜ばれる声を聞かせていただけることが何よりの励みです。神岡町の人口は減少が続いており、後継者の問題など課題はありますが、これからも、お客様に変わらず「ごちそう」を提供できるよう、伝統と技術に思いをのせて、次の世代につなげていきたいと思っています。

【組合概要】

協同組合スカイドーム・神岡

理事長 老田 哲康（有限会社老田屋 代表取締役）

〒506-1124 岐阜県飛騨市神岡町夕陽ヶ丘6番地

組合員数：14社

主な事業：共同販売、販売促進、調査・研究、教育情報事業



組合紹介

こんな活動をしています！

本会は、多種多様な業種・業態の組合等が会員となっており、これが本会の特徴でもあります。各組合がその特徴を活かし日々活動が続けられていますので、皆様の仲間を紹介します。



美濃タイル商業協同組合

- 理事長 福井 克彦
- 組合員数 20人
- 設立年月 昭和27年4月
- 住所 岐阜県多治見市金岡町2丁目75番地
- TEL 0572-22-0546
- URL <http://minotile.com/>

◆組合の歴史・活動



福井克彦理事長

当組合は、陶磁製タイルを取り扱う販売業者で組織する事業協同組合です。戦後間もない昭和24年に任意組織として活動を開始し、昭和27年に多治見市、土岐郡（現土岐市）を地区として、24社により事業協同組合を設立しました。

組合設立後は、輸出が好調となり、昭和54年に組合員はピークの62社まで増加しましたが、その後は円高による輸出不振や大手資本メーカーの参入、長引く景気低迷などの影響を受け、現在は20社になりました。

組合が設立された当時は、タイル販売業者が出荷のための2次加工（タイルを紙シートに貼って板でしぼる等）まで担っていたことから、組合では組合員が取り扱う商品の包装資材（荷造り資材である締め板、貼り紙、縄等）の共同購買、金融事業等を主な事業として行っていました。昭和43年には包装資材の共同保管、従業員の共同労務管理を事業に追加しました。

昭和55年、美濃焼タイルの見本品を展示する「美濃焼タイル展示場」を組合事務所の隣に建設しました。全国各地から多数の来場があり、大規模な商談が長年にわたり繰り返されてきました。時代の流れと共に“在庫商売”から、必要なものを必要なときに必要な分だけ提供する“ジャスト・イン・タイム”に変化してきたため、多様なニーズに応えるためのカタログ製作に重点をシフトしてきました。大手メーカーや商社が自社内にショールームを設置したことや電子メールの普及等により見本画像を即時共有できるような環境の変化等もあり、建物も老朽化していたことから、平成23年に展示場はその役割を終え、解体しました。

昭和62年、公共事業の拡大に伴い、共同受注事業を追加し公共事業における美濃焼タイルの受注拡大を目指しました。同時に、取り扱いが少なくなった包装資材の共同保管事業を廃止しました。

昭和63年に官公需適格組合の証明を受けたことで、その後の共同受注事業は順調に推移します。組合として

美濃焼タイルをさらにPRするため、平成4年からは本格的にカタログ製作に取り組み、受注体制を強化してきました。カタログは隔年で「カタログ委員会」を中心に組合の総力をあげて製作にあたっており、ページ構成やレイアウトなど細部まで、売れ筋商品やトレンドを考慮しながら、意見を出し合って作成しています。カタログ製作を開始した当初はタイルのみの掲載でしたが、昨今は関連商品も加わり「タイルと石材の総合カタログ」として広く認知される様になりました。現在はvol.16を3万5千部発行しています。また、vol.13からはWebカタログの製作を開始し、タブレット等による提案も可能になりました。

平成10年以降は毎年、他組合等とも連携し、国内で開催される建築・建材展への出展をしています。

その他、地元イベントへの協力、美術作家による作品制作や障害児施設の工作活動へのタイル提供、公共施設や保育園等へのタイルモニュメント寄贈など、地域のための活動にも積極的に取り組んでいます。

◆組合が目指す方向性とは

住宅建設市場の縮小や建築基準法施行規則改正による外壁の全面打診調査義務付けなど、タイル業界は決して順風満帆というわけではありません。

福井理事長は「縮小する市場の中で、タイルの魅力PRの強化を図っている。増改築や店舗の改装など、新たなタイル市場をどう開拓していくかを組合として取り組んでいる。建築物にタイルが使われる場所は、現在では外壁やエントランス、水回り等が中心であり、フルに使われているとはいえない。例えば、床はフローリングに代わり木目調のタイル、内装壁には壁紙に代わり湿度調整をするタイルなど、タイルを提案できる可能性はまだある。家を建てる際に、“最初に”「ここにこのタイルを使いたい!」とだけお願いするような商材・市場を目指している。タイルの良さを広めていくためには、個々の事業者の力だけでは難しく、業界のPRこそ組合として取り組むべきではないか。組合の使命は、組合員間の交流、組合員の経済的地位向上のための環境づくり、地域貢献の3つであると思っている。懇親会や研修で親睦を深めて目標を共有し、カタログの発行や展示会を通じて業界全体のPRをし、地域のために活動することでタイルに親しみを持っていただく。こうした組合の活動を通じて、組合員が「使命感」や「達成感」を感じることができれば、組合の存在意義は自然と生まれてくるのではないかと。ありがたいことに、組合青年部「陶青会」の結束も強く、次世代を担うメンバーが育っている。美濃タイルの未来のため、次の世代のために、今組合が何をすべきかを、これからも一生懸命考えたい」と今後の抱負を話されました。



保育園のモニュメント・夜にはライトアップもされる：組合寄贈

※組合紹介が可能な組合がございましたら、中央会の国際・情報課までお知らせください。

～日頃のつながり・備え・学びが地域の財産～ 全国の先進組合事例

○地域における教育の場の提供

神山椎茸生産販売協同組合

「神山椎茸」のブランド化及び地域に密着した人材育成

住所	〒771-3203 徳島県名西郡神山町鬼籠野字小原102番地	URL	http://www.k-shiitake.com
電話	088-676-1105	出資金	15,200千円
設立	昭和62年8月	組合員	6人
主な業種	椎茸の生産販売		

■背景と目的

神山町では、生産者の高齢化、後継者不足及び若者の町外流出等により、地域全体の活力を取り戻すことが急務となっている。共同販売事業を活性化させることで、特産品である椎茸を「神山椎茸」としてブランド化させる。また、並行して組合事業を地域の学校の授業に活用してもらい、若い世代の地域への興味・親しみを育む。

■事業・活動の内容と手法

組合及び組合員が緊密に連携し、菌床椎茸の生産・品質管理体制を整備することで、とくしま安2農産物（安2GAP）の認定を取得した。他県産の椎茸から新基準値を超える放射性セシウムが検出されたことによる椎茸産業全体への風評被害もあったが、本組合では放射能検査を実施しており、放射性物質のリスクにも対応している。これにより「神山椎茸」が、食品安全に加え環境保全や労働安全にも配慮した優れた農業生産体制で生産していることを消費者に示すことができた。現在では組合の取引先である京阪神の中央卸売市場、特に神戸中央市場において「神山椎茸」が高いシェアを占めており、「神山椎茸」のブランド化に繋がった。

また、地域の小学校・中学校による組合見学が毎年実施されており、将来の消費者であり地域の担い手でもある地域の小学生・中学校の生徒に、椎茸の生産から流通に至る一連の流れを実際に体験・学習してもらうことにより、地域の特産品である椎茸及び食の安全について学ぶ機会を提供している。

さらに地域の環境保全にも力を入れており、組合及び徳島県、徳島森林づくり推進機構の3者でパートナーシップ協定を結び、「とくしま協働の森づくり事業」を実施した。地域の中学校の生徒と一緒に森作り活動をし、ブナやモミジなど10種類の広葉樹を植樹した。

■成果

本組合は、地域との密着及び組合経営理念「安全安心な商品の提供と環境に配慮した経営の実現」という方針に基づき事業を企画・実施している。組合で高度な生産管理体制を整備し、神山椎茸をブランド化することで、組合員の利益だけでなく地域の活力にも繋がっている。併せて、優れた生産管理体制・設備により、地域の小学校・中学校の授業に組合が協力することで、学ぶ機会の創出に繋がっている。



▲とくしま安2農産物（安2GAP）認証



▲地域の小学生による組合見学

！ 事業・活動推進のキーファクター

組合及び組合員間でデータを共有管理しており、共同販売・生産・購入をする際に活用している。これにより適正な生産体制の管理及びチェックリストによる品質管理体制の確立が達成できた。

『団結は力 見せよう組合の底力!~地方創生は連携による地域力アップと強力な発信~』 第69回中小企業団体全国大会(長野県)

全国中小企業団体中央会と長野県中小企業団体中央会は、10月26日(木)に長野県松本市のキッセイ文化ホールで「第69回中小企業団体全国大会」を開催した。

本大会は、全国の中小企業団体の代表者が一堂に会し、中小企業者で組織する全国約3万組合等の意見を総意としてとりまとめ、これを内外に広く表明するとともに、国等に対して中小企業の実情と振興施策を訴え、中小企業の持続的な成長と豊かな地域社会の実現を図ることを目的としている。

今年のテーマは『団結は力 見せよう組合の底力!~地方創生は連携による地域力アップと強力な発信~』。大会には全国各地から約2,500人が参集し、本会からは会員組合などから30名が参加した。

唐沢政彦 長野県中央会副会長の開会宣言により幕を開け、大村功作 全国中央会会長が開会のあいさつ、阿部守一 長野県知事、菅谷昭 松本市長から歓迎のあいさつがあり、多数の来賓を代表して、武藤容治 経済産業副大臣、谷谷正明 農林水産副大臣、田畑裕明 厚生労働大臣政務官より、祝辞が述べられた。

続いて、春日英廣 長野県中央会会長が議長に就任し議事が進行され、地域を支える中小企業の持続的な発展を実現するため、中小企業対策の拡充に関する16項目を決議した。

また、決議案に関して、服部正 全国大会副会長(愛媛県中央会会長)が意見発表をし、山口泰明 自由民主党組織運動本部長、富田茂之 公明党経済産業部会長が政党代表としてあいさつした。

さらに、本大会の意義を内外に表明するため、吉江慎太郎 長野県中小企業青年中央会会長が大会宣言を「中小企業・小規模事業者は、深刻な人手不足、事業承継、生産性の向上など数多くの経営課題を抱えている。自らの経営基盤を強化し、持続的な成長のためには、個々の努力に加えて組合の持つ“つながる力”を大いに発揮し、課題に対して取り組んでいかなければならない。このためには、国、地方公共団体による強力かつ継続的な支援が必要である。中小企業及び組合、中央会は、明日、1年後、10年後、50年後、100年後の日本の礎となるべく、積極果敢に行動することを決意する」と高らかに宣し、満場拍手のもと採択された。

併せて、優良組合43組合、組合功労者71名、中央会優秀専従者27名に対して表彰が執り行われ、大村会長より表彰状とともに記念品が贈呈された。本県からの被表彰者は次のとおり。

▽優良組合=飛騨高山旅館ホテル協同組合(村井繁喜理事長)

▽組合功労者=高橋 勤氏(西濃電気工事協同組合・理事長)

▽中央会優秀専従者 河田 友宏

なお、決議項目は次のとおり。詳しくは、全国中央会ホームページからご覧下さい。

(<http://www.chuokai.or.jp/event/event-01.htm>)

I. 実感ある景気回復と中小企業・小規模事業者の生産性向上支援等の強化

1. 景気回復を実感できる対策の加速化
2. 中小企業・小規模事業者の生産性向上・経営力強化に対する支援の拡充
3. 中小企業組合等に対する支援の拡充

II. 地域活性化を担う中小企業・小規模事業者に対する支援の拡充

1. 事業承継、事業再生・再編等に対する支援の拡充
2. 官公需対策の強力な推進
3. 海外展開に対する支援の拡充
4. まちづくりの拡充推進・商業集積に対する支援の拡充、商取引の適正化

III. 震災復旧・復興支援、豪雨等による災害対策の拡充

1. 熊本地震、鳥取県中部地震、東日本大震災、豪雨災害に対する復旧・復興の更なる推進
2. 福島復興・創生に向けたきめ細かな対策の実施
3. 地域の防災・減災対策の強化

IV. 中小企業・小規模事業者の積極的な事業活動を支える環境整備

1. 中小企業金融施策の拡充
2. 中小企業・組合税制の拡充
3. 中小製造等の持続的発展の推進
4. 卸売・小売業、サービス業、物流業に対する支援の拡充
5. 優越的地位の濫用に係る独禁法の執行強化
6. 中小企業の実態を踏まえた労働・雇用・社会保障対策の推進



開会あいさつをする大村会長

来年の全国大会は、平成30年9月12日(水)に京都府京都市の「歌舞練場」をメイン会場として開催する予定です。会員の皆様には多数の参加をお願い致します。

「地域資源活用研究事業」経過報告(第2回・第3回)

中央会は、事業者間による横断的且つ継続的な交流により、3年計画で新商品・新技術開発を目指す「地域資源活用研究事業」を実施している。今年度は中小企業診断士の道家睦明氏がコーディネーターとなり、第1回(9月8日)のオリエンテーションを皮切りに、全6回のスケジュールで進めている。参加者の業種は、陶磁器・紙・木製品・プラスチック製造業の他、システム開発や金融等、多岐にわたる。

第2回目からは、県内地域資源に関連する製造現場の視察をし、その後視察で気付いたこと、自業界との違い、素材や技術の組み合わせ、異業種への展開、新商品のアイデア等について意見交換を行っている。

第2回(9月22日)は、美濃市の小ロット多品種に対応できる透かし和紙製造「丸重製紙企業組合」を訪れ、辻晃一理事長より、原料や透かし模様を出すための製造工程などの説明を受けた。第3回(10月27日)は、関市の学童向け彫刻刀シェアNo.1で手仕事による技術力の高さを誇る「義春刃物株式会社」を訪れ、田中淳也営業課長より、機械ではなく一本ずつ手作業で作られる様子が紹介された。

各視察終了後の意見交換では、自社技術を視察先企業の技術と組み合わせた新製品のアイデアなどが多数出された。回を重ねるごとに、アイデアを集約させていくことを意識しており、参加者は「徐々にアイデアが深まってきており、次回も楽しみにしている」と感想を述べた。

今後は、美濃加茂市の株式会社フクシマ化学、土岐市の丸直製陶所の視察及び意見交換を予定している。



丸重製紙企業組合視察の様子



義春刃物株式会社視察の様子

「組合女性事務局懇談会」を開催

中央会は、組合事務局の女性職員を対象に、「組合女性事務局懇談会」を10月4日と11月2日の2回にわたり開催し、ワールドカフェの青木文子氏を講師に迎え、懇談会や視察を行い、延べ44名が参加した。本事業では、組合の現状や組合事務局で働く中で感じていること等について女性同士で情報交換をし、組合での仕事に活かすためのヒントを探ることを目的としている。

第1回目は、OKBふれあい会館において、女性事務局長である大垣市鉄工協同組合 水谷悦美氏、岐阜県プラスチック工業組合 岩津文子氏、岐阜県金型工業組合 山内京子氏の3名より、組合事務局での取り組みや仕事に対する心構え等の紹介があった。続いて、ワールドカフェ方式で、組合の中で感じていることやこれから組合で取り組みたいことについて懇談会を行った。

第2回目は、タイル関係の組合が展示品等に協力している「多治見市モザイクタイルミュージアム」、とき窯元共販協同組合が指定管理者である「道の駅どんぶり会館」を視察した。その後、セラテクノ土岐に会場を移し、「美濃焼おかみ塾」を代表して、下石陶磁器工業協同組合組合員 土本弘子氏と伊藤瑛子氏、セラテクノ土岐 白頭智子氏の3名及び土岐津陶磁器工業協同組合事務局長 江口一美氏より、女性が中心となって取り組んでいる活動等について事例発表があった。1回目同様、懇談会を開催し、情報交換をした。

本事業開催に至る背景には、組合において女性職員が果たす役割は重要である一方、これまで他組合の女性職員との交流の機会に乏しかったことがある。参加者からは「初めて他組合の女性と話すことができ、意識を高く仕事をしている方の存在を知り、非常に励みになった」「組合のために何ができるか、今後も交流を通して積極的に考えていきたい」と前向きな声が多く聞かれた。



1回目ワールドカフェの様子

県に対し官公需に関する6項目を要望

中央会並びに中央会の部会である岐阜県建設関連業団体部会(荒川晶一部会長)は、10月23日に県庁を訪れ、県土整備部、都市建築部、商工労働部に対し「地元業者の優先活用と分離・分割発注の推進」など県の官公需に関する5項目の要望を行った。

同部会では、毎年「官公需フォーラム」を開催して県担当部局との懇談会を実施しており、このフォーラムに先立ち、事前に38組合等の会員から寄せられた意見を取りまとめて要望活動を行っている。

当日は、荒川部会長と井上豊秋副部会長ら5人の副部会長が、宗宮県土整備部長、酒向都市建築部長、河合商工労働部長に面談し、まず荒川部会長から要望の要旨が述べられ、続いて各副部会長から県内の建設関連業界の実情等が報告された。



荒川部会長(左)・宗宮県土整備部長

岐阜県で「組合青年部全国講習会」を開催

全国中小企業青年中央会が主催する「平成29年度組合青年部全国講習会」が11月10日に岐阜都ホテルで開催され、全国の青年部から約300名が参加した。今年は岐阜市での開催とあって、県青年中央会からは林繁良会長以下約110名が参加し、全国からの参加者に県青年中央会が中心となりおもてなしをし、ネットワークの構築や代表者同士の交流を図った。

講習会に先立ち、47都道府県の代表者が集い『UBAサミット』が開催され、グループによる意見交換が行われた。講習会では、第1部として、特許庁の上席産業財産権専門官 西田拓也氏が「企業経営に生きる知的財産」をテーマに講演。特許や意匠権などの知財を活用してヒット商品を生み出した中小企業の実例を交えながら、知的財産に関する制度の利用を推進した。第2部では、宮内庁式部職の鶴匠 杉山雅彦氏が「長良川の鶴飼い〜一子相伝の技術〜」と題し、鶴が鮎を飲み込む実演を交えながら、鶴飼いの紹介と世襲制による技術伝承について話した。

講習会終了後、会場前ロビーには美濃焼や刃物、鮎菓子などの県産品物産展ブースがずらりと並び、大勢の人で賑わった。

引き続き行われた交流懇親会には、岐阜県の神門純一副知事など多数の来賓が出席し、参加者同士の情報交換や親睦を深めた。



鶴匠杉山氏による講習会の様子

広域BCMに基づき防災訓練を実施

●岐阜県管設備工業協同組合(荒川晶一理事長)

岐阜県管設備工業協同組合は、岐阜県と締結した「災害時における応急復旧の応援に関する協定」及び公益社団法人日本水道協会(以下、「日水協」)岐阜県支部と締結した「災害時における水道施設等の応急復旧に関する協定」に基づき、9月26日に同組合会館会議室において防災訓練を実施した。組合では、今年4月に県建設業広域BCMの認定を受けており、計画通り情報の伝達、収集が円滑に行えるか実証訓練の場となった。

訓練には、組合員や県担当者ら12名が参加。東海地震警戒宣言発令・予知情報の発表による県からの応援要請と、大垣市の水道設備が被害を受けたことによる日水協岐阜県支部からの応援要請を想定し、携帯電話のメールを活用した情報伝達や災害時の水道施設の応急復旧を円滑に行うための準備体制などの確認を行った。

荒川理事長は「情報管理を徹底し、今後も危機対応能力の向上に努めていく」と述べた。



防災訓練に臨む組合員

「国際アパレルEXPO」に出展

●岐阜婦人子供服工業組合(伏見二彦理事長)

岐阜婦人子供服工業組合は、10月11～13日、東京ビックサイトで開催されたファッション展「ファッションワールド東京・秋」の「国際アパレルEXPO」に出展し、組合員7社がミセスの綿入れコートやウールのダッフルコートなど秋冬物の新作41点を展示した。

この展示会は、「アパレル」「バッグ」「シューズ」「アクセサリー」「メンズファッション」「テキスタイル」「OEM商材」「ファッションITソリューション」など、あらゆる商材が世界中から出展される日本最大のファッションの総合展。国内外のアパレル関連メーカー1,020社が出展し、来場者数28,000人と活気にあふれた。組合ブースでは、全国から訪れた専門店、百貨店、チェーンストア、商社などのバイヤーに向け、岐阜ブランドのPRを行い、商談を展開した。参加した組合員は「新規取引に結び付くなど、大変有意義な展示会出展となった」と語った。

当組合では、9月30～10月4日にも、京王百貨店新宿店で「岐阜アパレルフェア」を開催し、組合員企業の新作300点を展示する等、積極的にPRを行っている。



組合の出展ブース

「岐阜提灯の歴史と技」を開催

●岐阜提灯協同組合(尾関守弘理事長)

岐阜提灯協同組合は、10月1～3日の3日間、岐阜市の伝統工芸品「岐阜提灯」の魅力伝える展示会「岐阜提灯の歴史と技」を、みんなの森メディアコスモスで開催した。

岐阜提灯は、250年以上の歴史がある地元の工芸品でありながら、近年その歴史と伝統の技を知ってもらう機会がなかったため、改めて岐阜提灯の魅力や素晴らしさを伝えたいという思いから今回の展示会が企画された。

会場には商品展示として大小様々な提灯が約70点展示された他、岐阜提灯の歴史や作業工程を紹介。また、伝統工芸士による製作の実演も行われ、提灯のやわらかな明かりに包まれた会場では、多くの人が普段見ることのできない張りや摺込作業に見入っていた。



提灯の作業工程に興味津々

東濃各地で秋のイベントを実施

東濃各地では陶磁器関連の組合が各地域で秋のイベントを行った。

10月7・8日には市之倉陶磁器工業協同組合がさかづき美術館周辺で『陶の里フェスティバルIN市之倉』を開催し、廉売市や窯元めぐりを行った。

10月8・9日には多治見美濃焼卸センターが組合会館周辺で『第40回たじみ茶碗まつり』を開催し、大廉売市や各店舗の蔵出しセールを行った。

10月14～18日には岐阜県陶磁器工業協同組合連合会が、セラミックパークMINOで「2017美濃焼新作展示会」を開催した。グランプリの中小企業庁長官賞には、(有)ヤマ亮横井製陶所の「Otemoto-かなえ-」が、岐阜県中央会会長賞には齋木有二氏の「ナイトブルーリンカ鉢」が選ばれた。

10月28・29日には下石陶磁器工業協同組合が組合会館周辺で『下石どえらあええ陶器まつり』を開催。一窯一徴展として各窯一番の自慢技紹介や窯元もろ板陶器市、窯元めぐりを行った。

11月3日には、「第27回石彫のつどい」が蛭川公民館前で開催され、岐阜県花崗岩販売協同組合の組合員12社が地域の祭り「花馬」をテーマにそれぞれ制作した石のキューブを組み合わせて一つの壁画を完成させ、その披露式が行われた。

各組合がイベントを通じ、多くの来場者に地域の産業を見て、知って、購入してもらい、大いに賑わった秋のイベントであった。



2017 美濃焼新作展示会

創立50周年記念式典及び事務所竣工式典を開催

●多治見地区電気工事業協同組合(小境啓介理事長)

多治見地区電気工事業協同組合は、10月11日に多治見市の新組合事務所において「創立50周年記念式典及び事務所竣工式典」を開催し、来賓や組合員など約50名が出席した。

当組合は、昭和22年頃より東濃地区の電気工事業者が集まった任意組合電友会を母体とし、昭和40年頃から多治見市、土岐市、瑞浪市及び土岐郡一帯の組合を結成。その後、昭和42年に53社の事業所が、多治見地区電気工事業協同組合を発足した。現在は中小の電気工事業者72社で組織し、電気の安定供給を第一に、共同受注、共同購買、技術・安全向上のための教育情報事業等を行っている。

この度の組合創立50周年式典は、組合事務所の新築移転と重なり、その竣工祝いも合わせて行われた。新事務所は、環境と防災への対応として、蓄電式の太陽光発電設備と電気自動車充電設備を設置しており、災害時には地域への開放を考えている。

式典の開会にあたり小境理事長は「組合員及び関係機関の方々と力を合わせて、当組合の業務と並行し、地域内の電力安定供給の一翼を担うべく、次なる100周年に向かって今後も尽力したい」などとあいさつし、続いて組合功労者等への感謝状が贈呈された。また、式典後には懇親会も行われ、業界の歴史や先人たちの功績を振り返りながら、業界の節目を祝った。



小境理事長よりあいさつ

飛騨美濃鶏ちゃん協同組合設立10周年企画を実施

●飛騨美濃鶏ちゃん協同組合(日下部義理理事長)

飛騨美濃鶏ちゃん協同組合は、本年10月をもって組合設立10周年を迎えることから、周年企画として、10月28日に社会福祉法人飛騨慈光会 知的障害児施設 山ゆり学園に鶏ちゃん焼きそば60人分を提供したほか、10月27日から「周年 鶏ちゃんセット」を限定販売している。

組合では、毎年クリスマスに、社会貢献活動の一環として組合員4社が交代で当学園に鶏ちゃんを贈っているが、今回は、周年企画であることから、日下部理事長と組合員である株式会社トリショウの二村社長が学園を訪問。鶏ちゃんの調理、配膳に協力し、児童や教職員ら50人と一緒に食事をすることで交流を深めた。

また、「鶏ちゃんセット」は、組合員4社が商品を2個ずつ提供しセットにしたもの(各2個8袋入りで2,250円。みそ味、しょうゆ味、塩味、赤鶏/国産の親鶏肉)で、100セット限定販売となっている。

日下部理事長は、「これまで岐阜の誇る食文化である鶏ちゃんのPR宣伝、安心・安全な食品の提供に努めてきた。今後も、郷土料理としての自負と誇りをもって鶏ちゃんを広めていきたい。学園への鶏ちゃんの提供はこれからも続けていく」と話した。



鶏ちゃん焼きそばを食べる
日下部理事長(手前右端)と二村氏(左端)

「マーケット日和」に出展

●岐阜県製本紙工工業組合(今井桂一理事長)

岐阜県製本紙工工業組合は、11月3日に各務原市図書館周辺一帯を会場としたイベント「マーケット日和」にて、簡単に製本が楽しめる「パタパタカレンダーづくり」の体験ブースを出展した。

このイベントは、各務原市役所と市民企画委員の運営により「選りすぐりのマーケットを中心とし、本やアート、音楽など、ライフスタイルにプラスしたくなる物や人との出会いを楽しむためのイベント」として、毎年文化の日で開催されている。当日は200以上のブース出展があり、小さな子供から大人まで2万人を超える来場者で大盛況。

組合としてこのようなイベントに出展することは初めてで、組合青年部の「若鮎会」メンバーが中心となって準備をし、当日に挑んだ。今回の企画には、電子媒体が増加し、製本された印刷物が減少していく中、本や紙等の印刷物を「手に取ることの楽しさ」や製本の技術を伝えていきたい、という思いが込められている。

「パタパタカレンダー」は、1枚ごとの月間カレンダーを順番に組み合わせて糊付けし、参加者が選んだ表紙を貼り付け、よく接着するように2枚の板で挟み「手機械」(製本用のプレス機)で押さえてしばらく待つと出来上がり。参加者からは、「本がどうやって出来るのか知るきっかけとなり楽しかった」という声がかかれた。



仕上げに「手機械」を回す様子

青年部会全国大会を岐阜県で開催

●岐阜県自動車車体整備協同組合(平野将告理事長)

日本自動車車体整備協同組合連合会青年部会「第7回全国大会」が11月11日にホテルグランヴェール岐山で開催され、来賓や全国の組合青年部会員など約320名が出席した。同連合会青年部会は、自動車钣金塗装業者を中心とした組合青年部会29組合により組織されている。岐阜県の青年部会は平成25年の発足以来活発に活動しており、本大会では全国からの参加者をもてなした。

式典では、開会にあたり横岡連合会青年部会長が「自動車業界は大きな変革期にあるが次世代に自信をもってつなげる業界を創っていく」とあいさつし、開催地を代表して平光岐阜県青年部会長から、岐阜市立岐阜特別支援学校とのコラボ事業による記念品製作の紹介があった後、同青年部による3つのプロジェクトの事業発表等があった。

また、引き続き行われた懇親会では、業界の情報交換や交流を図り、盛会のうちに終わった。



あいさつする平光岐阜県青年部会長



景況レポート

平成29年
10月末調査
(前年同月比)

中小企業団体情報連絡員70名
の情報連絡票から

〔I〕10月の特色

◆景況感DI値マイナス24

～前月比8ポイントの悪化～

◆2週連続の週末の天候不順(台風)が、小売・サービス業に悪影響

〔II〕10月の概況

当月の景気動向を前年同月比の景況感DI値で見ると、好転1、悪化25で、DI値はマイナス24となり、前月のDI値マイナス16に対し、8ポイントの悪化となった。

業種別の景気動向を前年同月比の景況感DI値で見ると、製造業のDI値はマイナス14となり、前月比±0の横ばい、非製造業のDI値はマイナス35となり、前月比17ポイントの悪化となった。

なお、回答のあった70業種のうち、前年同月比で景況感が「好転」と回答した業種は、可児工業団地の1業種(前月比-1業種)。

また、「悪化」と回答した業種は18業種(前月比+5業種)となっている。

主要な調査項目を見ていくと、売上高DI値はマイナス20で前月比1ポイントの悪化、販売価格DI値はマイナス11で前月比7ポイントの悪化、収益状況DI値はマイナス24で前月比1ポイントの改善、資金繰りDI値はマイナス10で前月比4ポイントの悪化、雇用人員DI値はマイナス9で前月比6ポイントの悪化となり、収益状

況DI値のみ改善、その他の調査項目がいずれも悪化という結果となった。特に、非製造業では、景況感DI値はマイナス35で前月比17ポイントの悪化となった。

コメントを見ると、製造業では、「可児工業団地全体の景況感昨年8月より好調が続く。今回も9項目すべてがプラスの指標。(可児工業団地)」、「株価の上昇とともになのか、10月頃から各業種とも上昇機運が高まってきている。自動車関連は横ばいなのに対してその他の産業は好調のようである。(メッキ)」など、プラスの内容が報告された一方で、「急な冷え込みや、夏を思わせる気候などの天候要因が商況を盛り上げず。(婦人子供服)」など、マイナスの内容も報告された。

非製造業では、「売上高は、前年同月に比べ増加となっている(+14.3%)。国(+133.9%)、県(-0.3%)、市町(+4.0%)等と請負額の増減があり、国の増加により全体を押し上げて前年同月比増加となっている。(土木(岐阜地区))」など、プラスの内容が報告された一方で、「10月にしては珍しい台風が2日、更に週末という最悪の事態となり、県外からの旅行者のキャンセルが相次ぎ、組合員の在庫のたぶつきと売上の低下につながった。(水産物)」、「天候不順、2週連続の土曜・日曜日の台風、秋の長雨等の理由により、実質営業日の減少に伴い減収減益。過去にない10月の実数となった。(商店街(大垣))」など、台風など天候要因による悪影響を受けたとするマイナスの内容が多く報告された。

<主な調査項目での動向>

売上高の動向は、前年同月比で増加17、減少37でDI値はマイナス20となり、前月のマイナス19に対し、1ポイントの悪化となった。

売上高が増加した業種は12業種(前月比+3業種)あり、食肉(国産)、プラスチック、碎石生産、鋳物、メッキ、可児工業団地、電設資材卸、機械・工具販売、石油製品販売、土木(岐阜地区)、電気工事、木造建築である。

売上が減少した業種は26業種(前月比+4業種)あり、特に木材・木製品、窯業・土石、小売業、商店街の区分で多かった。

販売価格の動向は、前年同月比で上昇7、低下18でDI値はマイナス11となり、前月のマイナス4に対し、7ポイントの悪化となった。

販売価格が上昇した業種は5業種(前月比-2業種)あり、牛乳、可児工業団地、水産物商業、石油製品販売、貨物運送(県域)である。

販売価格が低下した業種は13業種(前月比+3業種)となった。

収益状況の動向は、前年同月比で好転7、悪化31でDI値はマイナス24となり、前月のマイナス25に対し、1ポ

イントの改善となった。

収益状況が好転した業種は5業種(前月比+1業種)あり、メッキ、可児工業団地、機械・工具販売、下呂温泉旅館、木造建築である。

収益状況が悪化した業種は22業種(前月比+1業種)あり、特に木材・木製品、商店街の区分で多かった。

資金繰りの動向は、前年同月比で好転1、悪化11でDI値はマイナス10となり、前月のマイナス6に対し、4ポイントの悪化となった。

資金繰りが好転した業種は1業種(前月比±0業種)あり、可児工業団地である。

資金繰りが悪化した業種は8業種(前月比+3業種)となった。

雇用人員の動向は、前年同月比で増加1、減少10でDI値はマイナス9となり、前月のマイナス3に対し、6ポイントの悪化となった。

雇用人員が増加した業種は1業種(前月比-3業種)あり、可児工業団地である。

雇用人員が減少した業種は7業種(前月比+1業種)となった。



県内中小企業

(10月末調査)

主要業種の景気動向

製 造 業		前年同月比						
区 分	業 種	調査項目	売上高	販売価格	収益状況	資金繰り	雇用人員	景況感
食料品	牛乳		△	○	△	△	△	△
	食肉(国産)		○	△	▲	△	▲	▲
	菓子		△	△	△	△	△	△
	米菓		△	△	△	△	△	△
	製麺		△	△	△	△	△	△
繊維・同製品	擦糸		△	△	△	△	△	△
	ニット工業物		▲	▲	▲	△	△	△
	毛織物		△	△	△	△	△	△
	合成繊維織物		△	△	△	△	△	△
	メンズアパレル		▲	△	△	△	△	△
木材・木製品	製材		△	△	▲	△	△	△
	銘木		▲	▲	▲	△	△	△
	家具		△	△	△	▲	▲	▲
紙紙加工品	機械すき和紙		△	△	△	△	△	△
	特殊紙		▲	△	△	△	△	△
	紙加工品		△	△	△	△	△	△
印刷	印刷		△	△	▲	▲	△	▲
化学ゴム	プラスチック		○	△	△	△	△	△
窯業・土石	陶磁器(工業)		▲	△	▲	△	△	△
	タイル		▲	▲	△	△	△	△
	窯業原料		▲	△	▲	△	△	△
	石灰		▲	▲	▲	△	△	▲
	生コンクリート		△	△	△	△	△	△
	砂利生産		▲	△	△	△	△	△
鉄鋼・金属	砕石生産		○	△	△	△	△	△
	鋳物		○	△	△	△	▲	△
	刃物等金属製品(輸出)		△	△	△	△	△	△
	刃物等金属製品(内需)		△	△	△	△	△	△
一般機械	メッキ		○	△	○	△	△	△
	県金属工業団地		△	△	△	△	△	△
	可児工業団地		○	○	○	○	○	○
輸送用機器	金型		△	△	△	△	△	
輸送用機器	輸送用機器		▲	△	▲	△	△	

非製造業		前年同月比						
区 分	業 種	調査項目	売上高	販売価格	収益状況	資金繰り	雇用人員	景況感
卸売業	電設資材卸		○	△	△	△	△	△
	陶磁器産地卸		▲	△	▲	▲	△	▲
	機械・工具販売		○	▲	○	△	△	△
小売業	青果販売		▲	▲	▲	△	△	▲
	水産物商業		▲	○	▲	△	△	▲
	家電機器販売		△	△	△	△	△	△
	メガネ販売		▲	△	△	△	△	△
	中古自動車販売		△	▲	△	△	▲	△
	石油製品販売		○	○	△	△	△	△
	共同店舗(飛騨)		▲	△	△	△	△	△
商店街	生花販売		▲	▲	▲	▲	△	▲
	岐阜市商店街		▲	▲	▲	▲	▲	▲
	大垣市商店街		▲	△	▲	△	△	▲
サービス業	高山市商店街		▲	△	▲	△	△	▲
	自動車車体整備		△	△	△	△	△	▲
	長良川畔旅館		△	△	△	△	△	△
	下呂温泉旅館		△	△	○	△	△	△
	高山旅館		△	△	△	△	△	△
	クリーニング		△	△	△	△	△	▲
	広告美術		△	▲	▲	△	△	△
	旅行業		△	▲	△	△	△	▲
	理容・美容業		▲	△	△	△	△	△
	建設業	土木(岐阜地区)		○	△	△	△	△
土木(飛騨地区)			▲	△	△	△	△	△
建築設計			▲	▲	▲	▲	△	▲
鉄構造物			△	△	△	△	△	△
電気工事			○	△	△	△	▲	△
管設備工事			△	△	△	△	△	△
建築板金			△	△	△	△	△	△
室内装飾			▲	△	△	△	△	△
木造建築			○	△	○	△	△	△
運輸業		貨物運送(県域)		▲	○	▲	△	△
	軽運送		△	△	△	△	△	△
	その他の非製造業	貸植木業		△	△	△	▲	▲

凡例 ○: [増加]、[上昇]、[好転]
 △: [不変]
 ▲: [減少]、[下降]、[悪化]

組合士レポート

今年度より開始した、岐阜県中小企業組合士協会所属の組合士が、日々の仕事で感じていることなどを綴る「組合士レポート」。第2回は岐阜県可児工業団地協同組合を40年以上にわたり支えてこられた“組合の生き字引”藤岡副会長に筆を執っていただきました。

「協同組合」は世界無形文化遺産です ～中小企業組合士の資格を活かす～

岐阜県中小企業組合士協会 副会長 藤岡正迪



あまり目立ちませんでしたが、昨年、ユネスコの世界無形文化遺産に「共通の利益の実現のために協同組合を組織するという思想と実践」が登録されました。世界無形文化遺産とは、「後世に残すべき独特の貴重な伝統や慣習、文化など」のこと。わが国では和食の文化や和紙の技術、祭りの山鉾・屋台などが選ばれ、これらはマスコミでも話題となりました。

協同組合は、経済的、社会的な目的を達成するために自発的に手を結んだ仲間が組成し、民主的に活動する組織です。そして、その根底にあるのが「たすけあい」いわゆる「相互扶助」の精神です。この崇高な理念に基づいた協同組合の存在と活動が国の枠を超えた意義あるものとしてユネスコの世界無形文化遺産への登録へと至ったのです。

さまざまな協同組合がありますが、どの組合においても組合員全員が協同組合の理念や活動のすべてを理解している訳ではありません。そのため、一定の専門知識を持ち、組合員を支える事務局職員が必要になります。中小企業組合士とは、そうした協同組合の実務に携わる者にとって必要かつ重要なライセンスなのではないでしょうか。

私ごとですが、先日、「敬老会」なるものに初めて招待され、これまで健康に生きてきたことへのお祝いをしてもらいました。体力に自信のある方ではありませんでしたが、人生の大半を岐阜県可児工業団地協同組合(以下「可児工業団地」という。)に勤めさせていただいたわけで、まさに「僥倖としか言いようがない」の古めいた言葉は、14歳のプロ棋士・藤井聡太4段より76歳の私のほうがふさわしいでしょう。

可児工業団地は、今でこそ、大小の製造業48社が立地し、5千人以上が働く県下最大の工業団地ですが、私が34歳で勤め始めた頃は、まだまだ草創期でした。用地取得や工場建設、制度融資を受けるための資料づくり等に夜中まで働き、今というブラックの時代もありました。

時間の経過と共に組合活動の主要テーマは、中小企業の集団化事業の推進から、現在では東南海地震対策に向けたBCP(事業継続計画)策定事業や工業団地の環境対策、従業員の交通安全・福利厚生や教育訓練事業、労働力確保のための雇用対策事業、また本来業務ではありませんが、組合とは別に株式会社を設立し、自主的な財源確保のための保険業務など多種多様に変化してきました。とりわけ、40年以上に及ぶ勤務の中で、今も印象に強く残り、これ以上ない達成感を味わえた業務の1つは、当工業団地が騒音規制の緩和の仕組みを国に要望し、足かけ4年、難渋の末にやっとそれを全国規格として認めてもらったことでした。

大学を卒業して当組合で働くまでの10余年、車のセールスや中小メーカーの経理、農協の金融担当など様々な職業を経験しましたが、その経歴が決して回り道ではなく、当組合に入ってから大いに役立ったと思います。その支えになったのが

中小企業組合士取得に向けて習得した組合運営の基礎知識と、資格をもって事に当たるといった気概であったと思います。また、組合士の資格を持っていることは、組合事務局としての役割をスムーズにこなす上で、役に立っています。

可児工業団地では、今年の新人を除いて男性職員5人全員が中小企業組合士です。組合論の権威、百瀬恵夫 明治大学名誉教授から「めずらしい組合だね」と褒めていただきました。きっかけは、伝票のデの字も分からない若手の電気技術者を含め男性職員に一斉に受験を勧めたことでした。皆それぞれのメンツもあり、効果はテキメン。全員が2年で合格できました。一人だけで頑張るのはメンタル的にもたいへんです。まだ、組合士の資格を持っていない方は、仲間を誘いあってチャレンジしてはどうでしょうか。



岐阜県可児工業団地(協)事務局職員一同

【秋の叙勲・褒章の表彰】

2017年『秋の叙勲・褒章』について、11月2日に褒章、3日に叙勲の受章者がそれぞれ発表されました。中央会関係者の方々は右記のとおりです。

叙勲

【旭日双光章】

齊木 克躬氏＝土岐市陶磁器卸商業協同組合・理事長(本会 常任理事)

岐阜労働局より

岐阜県特定(産業別)最低賃金が改正されます

岐阜労働局では、「岐阜県特定(産業別)最低賃金」を、本年12月21日から次のとおり改正決定しています。

「岐阜県最低賃金」は、年齢に関係なく、パートや学生アルバイトなどを含め、県内で働くすべての労働者に適用されます(一部の産業には特定(産業別)最低賃金が適用されます)。最低賃金を下回る金額で労働契約を結んでもその契約は無効であり、事業者は少なくとも最低賃金額を支払わなければなりません。

なお、最低賃金改正に伴う義務的な昇給についても、改正発行日の前日(平成29年12月20日)までに、キャリアアップ計画等を岐阜労働局に提出することで「キャリアアップ助成金」の支給を受けることができます。

詳しくは、最低賃金の改正は岐阜労働局労働基準部賃金室(電話:058-245-8104)、キャリアアップ助成金は岐阜労働局職業安定部助成金センター(電話:058-263-5650)、又はお近くの労働基準監督署までお尋ねください。

件名	最低賃金額(時間額)		引上げ額	引上げ率	改正発効日
	現行額	改定額			
岐阜県電子部品・デバイス・電子回路、電子機械器具、情報通信機械器具製造業最低賃金	829円	→ 846円	17円	2.05%	平成29年12月21日
岐阜県自動車・同附属品製造業最低賃金	872円	→ 890円	18円	2.06%	
岐阜県航空機・同附属品製造業最低賃金	917円	→ 931円	14円	1.53%	

岐阜県中央会 東濃支所移転のお知らせ

このたび東濃支所を11月1日より下記に移転しました。今後とも格別のご支援ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

移転先住所

〒507-0841

多治見市明治町2丁目4番地

多治見陶磁器卸商業協同組合ビル2階

電話番号 0572-25-0865

FAX番号 0572-23-7431

※電話番号及びFAX番号の変更はありません

岐阜県木材協同組合連合会より

「ぎふの木」で家をつくりませんか

岐阜県木材協同組合連合会(丸山輝城会長)の関係団体である岐阜県産直住宅協会では、「ぎふの木の家」の普及を目指し、同協会と業務提携した団体に所属する従業員等が産直住宅の新築を行う際に最大30万円を割引く「新住宅建設割引制度」を設けています。

岐阜県産直住宅とは、①同協会に加盟する工務店が建築した住宅、②住宅の骨組みである構造部分の60%以上が岐阜県産材を使用、③工務店と施主が築後の点検サービスなどの保証契約を結んだ住宅、が条件となっています。

県産直住宅協会と業務提携を結ぶことでこの割引制度の利用が可能となりますので、是非ともご検討をお願い致します。

詳しくは、岐阜県産直住宅協会(0120-844-322)までお尋ねください。



中央会日誌

<9月21日~30日>

28日 東海北陸ブロック中央会会長会(名古屋マリオットアソシアホテル)

<10月1日~31日>

4・12日 特定最低賃金専門部会(岐阜合同庁舎)

10日 都道府県中央会事務局代表者会議(ANAインターコンチネンタルホテル東京)

11日 中小企業団体トップセミナー(ANAインターコンチネンタルホテル東京)

多治見地区電気工事業協同組合創立50周年記念式典及び事務所竣工式(組合事務所)

14日 鹿児島県との友好の証プロジェクト ケヤキ贈呈式(陣場野公園)

岐阜県地方最低賃金審議会(岐阜合同庁舎)

24日 平成29年度岐阜県地域訓練協議会(岐阜合同庁舎)

25日 清流の国ぎふ女性の活躍推進会議(岐阜県庁)

26日 第69回中小企業団体全国大会(キッセイ文化ホール(長野県松本市文化会館))

31日 岐阜県農商工連携ファンド審査委員会(OKBふれあい会館)

<11月1日~20日>

8日 岐阜県地方最低賃金審議会(岐阜合同庁舎)

13~17日 ベトナム視察研修(ハノイ、ダナン)



岐阜県
開催

「ものづくり補助事業成果事例発表会」のお知らせ

ものづくり補助事業成果事例発表会

一歩先へ!

ぎふを支える中小企業

ものづくり補助金を活用して開発された新製品、サービス、技術等の優秀事例の展示及び成果事例を発表する「ものづくり補助事業成果事例発表会」を開催します。また、テレビ等でおなじみの慶應義塾大学大学院 岸博之教授から「2018年の経済動向と中小企業が目指すべき戦略の方向性」をテーマとした講演も行いますので、ぜひご参加をお願いいたします。

※原則事前申し込みが必要です。

詳細は、HP(<http://www.chuokai-gifu.or.jp/>)をご覧ください。

開催日時 > 2017年 **12月4日** 日

13:00	開場
13:40	オープニング (佐藤雅彦氏)
13:45~14:15	成果事例発表会
14:30~16:00	岸博幸氏講演会
16:30	終了

講演者 > **岸 博幸**
慶應義塾大学大学院「メディア・デザイン」研究科教授

講演者 > 「2018年の経済動向と中小企業が
目指すべき戦略の方向性」

参加無料

開催場所 / 岐阜都ホテル 2階
「ボールルーム」
(岐阜市市民会館北2555-2)

参加人数 / 200名 (岐阜県内はみんぱくホール、211号館(2階)にて)

主催：岐阜県中小企業団体中央会
ものづくり補助事業 助成事業推進委員会
〒500-8304 岐阜市東山町2275-14 電話：058-277-1101
FAX:058-277-1101 Eメール:chuokai@chuokai-gifu.or.jp

岐阜県中央会では、ものづくり補助金(平成24・25・26・27年度補正事業)を活用して開発された新製品、サービス、技術等の優秀事例の展示及び成果事例を発表する「ものづくり補助事業成果事例発表会」を開催します。また、テレビ等でおなじみの慶應義塾大学大学院 岸博之教授から「2018年の経済動向と中小企業が目指すべき戦略の方向性」をテーマとした講演も行いますので、ぜひご参加をお願いいたします。

※原則事前申し込みが必要です。

詳細は、HP(<http://www.chuokai-gifu.or.jp/>)をご覧ください。

開催日時 ▶ 平成29年 **12月4日** 月

13:00	開場
13:40	オープニング
13:45~14:15	成果事例発表会
14:30~16:00	岸博幸氏講演会
16:30	終了

開催場所 ▶ 岐阜都ホテル ボールルーム

お問い合わせ先

岐阜県中小企業団体中央会 国際・情報課
☎058-277-1101

東京・大阪
開催

「中小企業 新ものづくり・新サービス展」のご案内

ものづくり補助事業成果発表・ビジネスマッチング会
「中小企業 新ものづくり・新サービス展」
Japan SMEs Tech & Services 2017

新しいものづくりがここにある。

ウェブサイトにて事前来場者登録受付中!
<http://www.shin-monodukuri-shin-service.jp/>

入場無料

大阪会場	東京会場
インテックス大阪 6号館A・Bゾーン 11/28(火) 13:00~17:00 11/29(水) 10:00~17:00 11/30(木) 10:00~16:00	東京ビッグサイト 東7・8ホール 12/6(水) 13:00~17:00 12/7(木) 10:00~17:00 12/8(金) 10:00~16:00

講演者 > 岸博幸 (慶應義塾大学大学院教授)、佐藤雅彦 (岐阜県立大学)、石川英樹 (岐阜県立大学)、佐藤雅彦 (岐阜県立大学)、佐藤雅彦 (岐阜県立大学)、佐藤雅彦 (岐阜県立大学)、佐藤雅彦 (岐阜県立大学)、佐藤雅彦 (岐阜県立大学)、佐藤雅彦 (岐阜県立大学)

全国中央会では、ものづくり補助金(平成24・25・26・27年度補正事業)を活用して開発された新製品、サービス、技術等を一堂に展示し、その成果を全国に発表する「中小企業 新ものづくり・新サービス展」を開催します。今年はビジネスマッチングに注力し、販路開拓、市場創出、企業間連携の実現など、事業化促進の支援を目的としています。

※ウェブサイトにて事前来場者登録受付中です。

詳細は、HP(<http://www.shin-monodukuri-shin-service.jp/>)をご覧ください。

大阪会場:インテックス大阪(6号館A・Bゾーン)

開催日時 ▶

11月28日(火)	13:00~17:00
11月29日(水)	10:00~17:00
11月30日(木)	10:00~16:00

東京会場:東京ビッグサイト(東7・8ホール)

開催日時 ▶

12月6日(水)	13:00~17:00
12月7日(木)	10:00~17:00
12月8日(金)	10:00~16:00

この広報誌は岐阜県からの助成を受けています。